

第879号

令和3年6月7日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

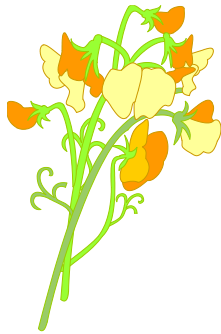
FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

HP:<http://kanai-es.sado.ed.jp>

(教室だよりのバックナンバーも掲載中)

相談関係のきっかけについて



新潟県中央福祉相談センター
企画指導課 課長代理 稲垣 俊介

児童相談所の佐渡駐在として2年目になりました。海を見る機会が多かったためか佐渡の冬は思っていた以上に厳しく感じました。

相談者自身に考えてもらう場面があります。「思い出たくありません」、「どうせ変わりません」などとストレートに言われると話が進まなくなって困ります。そんな時、家族にとって身近な話、例えば田植えや子どもの運動会等の話をきっかけに相手が心を開いてくれることがあります。そこで初めて大事なことを一緒に考えられるようになることがあります。対立的な関係から一緒に考えることができる相談関係に変わった時はうれしいものです。

相談者の日常に近づいて共感できるようになりたいと思います。そのためには面接前に何を話そうかと難しく考えるよりも、移動中に見える農作業や親子の様子を見て四季折々の生活を想像する余裕も大事かなと思うこの頃です。



通級OJT研修 始まりました!

5月11日から、発達通級でOJTが始まりました。OJT研修とは、日常の教育活動の中で指導法や対応法を学ぶ研修のやり方です。新潟県内で「通級指導」の必要性が高まる中、小学校の学級担任の方々などに通級指導のスキルを身に付けてもらうことを目的として、今年度から始まった事業です。

金井小学校の発達通級2クラスにも、5月から2月まで、毎週火曜日と水曜日に1名ずつ研修を受ける先生がおいでになり、担当と活動を共にしながら通級指導の実際を学んでもらいます。火曜日は羽茂小学校の本間雅美教諭がことば・こころ4で、水曜日は金井小学校の若林果歩教諭がことば・こころ3で、それぞれ研修しています。

5月11日の火曜日、子どもたちは“見学の先生”である本間先生に、自己紹介したり一緒にゲームを楽しんだり、いつもよりはりきって活動していたように感じました。また、いつもなら私が一人で二役するところ、本間先生に入ってもらうことで、会話の型や会話から状況を察する課題などをリアルに提示できて、より実践的な学習が期待できます。子どもたちにとって、担当以外の先生と定期的に接することは、コミュニケーションや人間関係を形成する力を身に付ける絶好のチャンスです。1対1での学習以上に効果が上がると、私もわくわくしています。本間先生にも、通級する子どもにも、それぞれに学びの多い活動になることを期待しています。(香遠)

親の会コーナー



親の会会長挨拶

「できるときに、できる人が、無理なく楽しく」



親の会会長 佐藤佳世

会員の皆様には、親の会の活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

今年度、会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ことば・こころの教室親の会は、昭和46年に発足されたそうで、今年、ちょうど50年になります。

今までの活動内容も参考にしながら、子どもたちを通して、先生方と一緒に、保護者同士のつながり、和と輪を大切に、無理なく楽しく活動できればと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

お知らせコーナー



令和3年度 親の会活動計画

今年度の親の会活動計画です。新型コロナウイルス感染状況によっては変更があるかもしれません。

- ・ 5月 8日 (土) 親の会総会 (書面総会)
- ・ 6月 26日 (土) 第1回学習会「グループ懇談会」
- ・ 11月 13日 (土) 第2回学習会 ※9月に実施の有無を検討します。
- ・ 3月 18日 (金) 終了者懇話会

ことば・こころ応援団



ことば・こころ応援団は、子育てに奮闘しておられるおうちの方に向けての応援メッセージを紹介するコーナーです。

本年度第1回目は、先輩保護者の佐々木マサミさんです。佐々木さんは、息子さんが在学中、息子さんに寄り添ってくださっていた介助員さんの姿を見て、今の福祉のお仕事に就かれたそうです。その息子さんは、今は成人し、立派な社会人となっています。ハラハラドキドキしながらも、子どもの成長を信じ背中を押すことの大切さを学ばされます。



「息子の成長」

社会福祉法人 しあわせ福祉会 佐々木マサミ

20歳になった息子は、毎日マイカーを運転して作業所に通っています。買い物に行くのも床屋に行くのも家族と出掛けていた息子ですが、高等部3年生の時に教習所に通い始めました。初めての説明会の時に、「1人で聞いてきてね」と背中を押しました。内心はハラハラドキドキ。1人で行かせたことを後悔しましたが、「疲れた～」と言ってはいたものの、満足気な顔をして帰ってきたのでホッと一安心したのを覚えています。それから半年間、教習所に通い免許を取得することができました。今では、作業所に通うのはもちろん、床屋に行く時、杉っこクラブでのカレーパーティー、ローソン、ツタヤ、ヤマダ電機……と行動範囲が広がり、1人で運転をして出掛けています。不安や心配が先に立ち、なかなか背中を押すことは難しいのですが、ちょっとだけ押してあげることで親子共に更に成長できたように感じています。

最近では、週末に1週間のお疲れ様として家族みんなで『乾杯』をすることが楽しみとなっています。

